

## 気候変動に対応した砂防計画検討の方向性について議論します ～「気候変動を踏まえた砂防技術検討会」(第7回)を開催～

- 気候変動による降雨特性の変化等を踏まえ、新たに顕在化する土砂災害に対して適切な対策を講じていくため、技術検討会を開催し対策等の検討を進めております。
- 今回の検討会では、これまで議論した内容を踏まえ、気候変動に対応した砂防計画の方向性、本検討会のとりまとめ骨子(案)等について議論します。

1. 日時 令和5年8月10日(木) 10:00～12:00
2. 場所 東京都千代田区霞が関2-1-3  
中央合同庁舎3号館水管理・国土保全局6階B会議室(WEB会議併用)
3. 検討会設置の趣旨及び委員 **別紙1**、**別紙2**のとおり
4. 議事
  - ・崩壊性地すべりの事例集(案)及び啓発資料について
  - ・土砂・洪水氾濫時に流出する流木の対策計画の基本的な考え方(試行版)(案)について
  - ・気候変動に対応した砂防計画検討の方向性について
  - ・とりまとめ骨子(案)について
5. その他
  - ・本会議の傍聴は、WEB上でのみとさせていただきます。なお、回線容量の都合上、各社1名に限定させていただきます。
  - ・WEB傍聴を希望される方は8月9日(水)12:00までに以下のとおりメールにてご連絡ください。期日までにご連絡頂いた方にWEB会議のURL及び会議資料を送付します。
    - 件名:【WEB傍聴希望】気候変動を踏まえた砂防技術検討会(第7回)
    - 本文:氏名(ふりがな)、所属、連絡先
    - 送付先:iida-k423&mlit.go.jp (&を@に変えて送付してください)
  - ・これまでの検討会の経緯は**別紙3**のとおりです。
  - ・会議資料及び議事録は、後日、国土交通省ウェブサイトに掲載予定です。  
[https://www.mlit.go.jp/river/sabo/committee\\_kikohendo.html](https://www.mlit.go.jp/river/sabo/committee_kikohendo.html)

### 問 い 合 わ せ 先

国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部 砂防計画課  
課長補佐 後藤 健(内線36-136)、係長 飯田 健嗣(内線36-135)  
TEL: 03-5253-8111(代表) 03-5253-8466(直通)

## 「気候変動を踏まえた砂防技術検討会」

### 開催趣旨

IPCC 第 5 次報告書においては、気候システムの温暖化には疑う余地がなく、21 世紀末までにほとんどの地域で極端な降水がより強く、より頻繁となる可能性が非常に高いことなどが予測されると報告されている。

このような中、平成 28 年北海道・東北地方を襲った一連の台風に伴う豪雨、平成 29 年九州北部豪雨、平成 30 年 7 月豪雨、令和元年台風第 19 号に伴う豪雨など、近年、激甚な土砂災害を伴う豪雨が頻発している。気象庁においては、平成 30 年 7 月豪雨は地球温暖化の影響があったとしている等、既に温暖化の影響が顕在化しつつある状況と認識される。

今後のさらなる降雨特性の変化に伴い激甚化が予想される土砂災害に対し、適切な対策を講じていくためには、これらの降雨特性の変化に伴う対策の検討・実施に必要な関係諸量（土砂量等）の変化を適切に評価する必要がある。しかしながら、気候変動による降雨特性の変化により、どのような土砂災害の原因となる土砂移動現象（以下、「土砂移動現象」と言う。）が顕在化するか十分な科学的・技術的裏付けがされているとはいえない。また、土砂移動現象は、地質や地形、気候条件などの影響を受け、地域ごとに異なる可能性も考えられる。

そこで、本検討会においては、気候変動による降雨特性の変化により将来発生・顕在化が懸念される地域毎の土砂移動現象及び対策の検討・実施に必要な関係諸量の調査・評価手法の高度化等を図ることによって、土砂災害対策分野における気候変動への適応策の実施に資することを目的とする。

「気候変動を踏まえた砂防技術検討会」

委員名簿

内田 太郎	筑波大学 生命環境系 教授
執印 康裕	九州大学 農学研究院 教授
中北 英一	京都大学防災研究所 所長 教授
◎ 藤田 正治	京都大学 名誉教授
堀田 紀文	東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授
松四 雄騎	京都大学防災研究所 教授

◎：座長  
(敬称略、五十音順)

## 「気候変動を踏まえた砂防技術検討会」

## これまでの経緯

- 現地調査会（令和元年12月9日）
  - ・ 現地調査会・意見交換会
  
- 第1回（令和2年1月8日）
  - ・ 顕在化・増加の恐れがある土砂移動現象、今後の検討の方向性の整理
  
- 第2回（令和2年5月21日）
  - ・ 中間とりまとめの公表
  
  - 以降、中間とりまとめに基づく調査・研究を開始
  
- 第3回（令和3年3月5日）
  - ・ 土砂災害対策分野における研究・技術開発の進め方、行政施策への反映の方向性の整理
  
- 第4回（令和4年1月6日）
  - ・ 土砂・洪水氾濫により大きな被害のおそれのある流域の抽出方法について議論
  
- 第5回（令和4年4月22日）
  - ・ 土砂・洪水氾濫により大きな被害のおそれのある流域の調査要領について議論
  - ・ 過去の土砂災害における降雨量と生産土砂量の関係分析について議論
  
- 第6回（令和5年3月8日）
  - ・ 過去に発生した崩壊性地すべりの特徴等について議論
  - ・ 土砂・洪水氾濫時に流出する流木への対策に関する基本的な考え方について議論
  - ・ 流域治水型砂防事業の展開について（情報提供）
  
- 第7回（令和5年8月10日）【今回】
  - ・ 崩壊性地すべりの事例集（案）及び啓発資料について
  - ・ 土砂・洪水氾濫時に流出する流木の対策計画の基本的な考え方（試行版）（案）について
  - ・ 気候変動に対応した砂防計画検討の方向性について
  - ・ とりまとめ骨子（案）について